墨田区名産江戸東京野菜「寺島なす」で街づくり

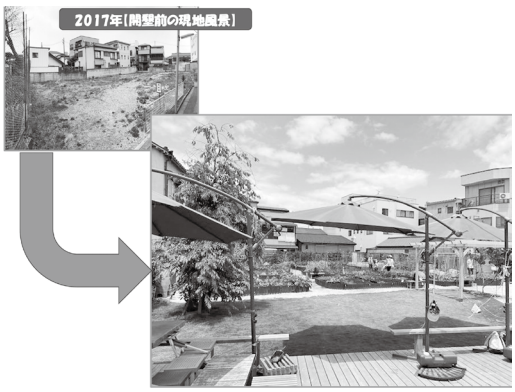
東京都墨田区　特定非営利活動法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会



NPO法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会(てらたま協議会)は、墨田区の北部東向島地域を中心に、地域活性化・地域連携を目的とした"まちづくり活動"を行っている団体です。平成29年に法人格を取得し、地域の方々がふれあい、つながる場や機会を提供しています。「墨田区名産の復活した江戸東京野菜『寺島なす』」という歴史ある解りやすい題材によって、まちづくり／まちの活性化につなげていきます。

■復活した江戸東京野菜「寺島なす」

墨田区北部東向島周辺は、江戸時代は寺島村といい、江戸の人々に新鮮な野菜を提供する農村でした。



たもんじ交流農園
皆で、雑草を抜いて、土を掘って、ダンプで土を運んで、3年がかりで素敵な農園ができました。

この地域一帯は、隅田川上流から運ばれてくる肥沃な土壌でナス作りに適し、ここで作られたナスは、その名も「寺島なす」と呼ばれ、「鶏卵大の小ぶりですが、甘くて美味しい」と、江戸の庶民から将軍様まで大人気のナスでした。

しかし、関東大震災で、焼け野原となり、宅地化の進展で畑はなくなり、「幻のなす」となってしまいました。

2009年、90年ぶりに、ジーンバンクで寺島なすの種がみつかり、三鷹のナス名人星野さんが「寺島なす」を蘇らせました。2011年、てらたま協議会も、かつての名産地墨田区で寺島なすを復活させ、まちづくりに活用すべく、「寺島なす復活プロジェクト」を立ち上げました。

■「寺島なす」復活プロジェクト

①東向島駅前プランターでの寺島なす栽培（2011年～現在）

寺島なす復活プロジェクトを開始した当時は、墨田区発祥の江戸野菜といっても、知っている人は誰もいませんでした。東武鉄道に交渉し、商店街に面した線路ガード下のプランターを借用して「寺島なす」を育てて展示して、「寺島なす」を知ってもらうことから始めました。初めて目にする「小ぶりで丸みのある愛らしい」寺島なすは、道行く人の関心を呼び、大きなＰＲ効果がありました。

②「寺島なす苗」の販売（２０１１年～現在）

墨田区北部は、なすを植えるには畑はもちろん、庭すら満足に無い土地柄です。そこで各家庭のプランターで育ててもらえるように、寺島なすの苗の販売／提供を始めました。植え方育て方のチラシを付けて、毎年約５００株の苗を提供しています。

③まちなかコミュニティ農園“たもんじ交流農園”の創設（２０１７年～現在）

寺島なす発祥の地で、墨田区産“寺島なす“を育成したいとの強い想いから、２０１７年より3年間、「墨田区のふるさと納税型クラウドファンディング」を活用して、“たもんじ交流農園“を創設しました。多聞寺様のご好意で無償でお借りした駐車場跡地に、手づくり／手弁当のボランティアで造成し、運営をしているコミュニティ農園です。暮らしの中で土にふれ、農体験の楽しさを感じられる場として、寺島なす等の江戸東京野菜を中心に様々な作物を育てています。毎年たくさんの「寺島なす」が実ります。



たもんじ交流農園産「寺島なす」
今年も元気に育っています

「交流農園イベント」も大盛況です。「寺島なすの苗植え会」「四季折々の収穫祭（寺島なす／じゃが芋／落花生等）」などなど、手作りピザ窯で焼いた寺島なすピザの美味しいこと！　子どもたちの笑顔がはじけます！　種／苗を植えて、野菜を育てて、収穫します。まさに、食育の実践です！

２０２２年末、墨田区で初めての「市民緑地」として認定されました！

④寺島なす苗植え出前授業＆苗植えワークショップ（２０２３年～現在）

「寺島なす」が再び幻のなすとならないように、未来を担う子どもたちに、「寺島なす」の命をつないでほしいとの想いから、小中学校で、「寺島なす苗植え出前事業」を実施し、また、地域団体と連携して、「寺島なす苗植えワークショップ」を開催するなど、「寺島なす」の輪を広げています。

⑤「寺島なす★祭り！」開催（２０２２年～２０２４年）

墨田区内に、「寺島なす料理」を扱ってくれる飲食店さんを増やし、「墨田の郷土料理」として観光資源の一つに育て、飲食店需要を喚起して、墨田区の地域経済活性化に貢献したいとの想いから、隅田公園で3年間、「寺島なす★祭り！」を開催しました。飲食


たもんじ交流農園のワクワク
「四季折々の収穫祭（寺島なす・落花生・じゃが芋）」「稲刈り」などなど。子どもたちの笑顔がはじけます！



寺島なす★祭り！
「寺島なす料理」を墨田区の郷土料理に！



寺島なす苗植え出前授業
未来を担う子ども達に、「寺島なす」の命をつないでほしい！

店さんが、寺島なす料理を競う「N・1（なすワン）グランプリ」をメインテーマに、「江戸東京野菜トークショー」「紙芝居／ウクレレ演奏／ソプラノ独唱」、最後は、「寺島茄子之介音頭盆踊り」で締めくくる、大盛況のお祭りイベントです。

「寺島なす」は夏野菜で、真夏の開催は、気象変動の影響もあり、身体的負担が大きく、2025年の開催を中止しましたが、「飲食店さんとコラボしての寺島なす料理を味わう会」、「寺島なすの料理教室」等々、「寺島なす」を題材に、人／地域／歴史をつなぎ、寺島なすをPRして、「墨田の郷土料理」に育てていく活動を今後も続けていきます。

⑥「寺島なす」で地域と人と歴史をつなぐ「青果リレー」（2017年～現在）

寺島なすをバトンタッチして地域／人／歴史をつなぐ「青果リレー」は、2017年から毎年開催し、これまでの墨田区北部から、2024年は、「すみだまつり」に参上し、墨田区南部の皆様にも寺島なすの輪が広がりました。青果リレーランナー、トーチキス参加者、沿道の応援者の皆様の〝繋がり感・一体感〟は、半端ないものがあります。毎年最終ランナーは山本亨墨田区長にお願いし、剣道7段の区長の剣技パフォーマンスで大盛り上がりです。

■今後の活動目標

墨田区名産「寺島なす」ブランドを確立し、「墨田区と言えば、『寺島なす』と誰もが言う！」状態をビジョンとして掲げ、その実現を目指します。墨田区役所やあらゆる地域団体／個人と連携の輪をさらに広げて、「たもんじ交流農園」がモデルケースとなって、墨田区に「まちなか農園」が広がって、「寺島なす」で、人と人をつなげ、地域を活性化し、この街をより魅力ある場所にしていくように、これからも活動を続けていきたいと思っています。

（特定非営利活動法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会　事務局・副理事長　小川剛）



青果リレー2025
墨田区北部・南部の人と人、地域が、寺島なすのトーチキスでつながりました